

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9 月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	2 7 7 9 3 0 0 3 5 5		
法人名	社会福祉法人ラポール会		
事業所名	くみのき苑グループホーム		
所在地	大阪狭山市東菜葉木 4 丁目 1 1 6 0 - 2 072-367-9560		
評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン		
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10ATCビル11棟9階		
訪問調査日	2009年 8月20日	評価確定日	2009年 9月16日

【情報提供票より】(2009年 8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 4 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	8.05 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート+鉄筋 造り		
	3 階建ての 2 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	1 名	要介護 2	5 名
要介護 3	9 名	要介護 4	3 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 67 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くみのき診療所、青山第二病院、松浦歯科診療所、榎本病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

河内長野市、大阪狭山市、堺市、大阪市に数多く介護施設を運営している、社会福祉法人ラポール会の中核的グループホームである。高野線の滝谷駅から住宅街を抜け、畑、工場、マンションが点在する中、15分ほど歩くと、幹線道路から少し入ったところにある。同法人の特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、デイサービスセンターなどと同じ敷地内にある。開所8年を過ぎ充実した運営がされている。最近では職員が定着してきている。入居者の表情は明るく昼食作り参加者も複数いて、楽しい風景が見られた。「此处に来てに来てほんとうによかった」と話している入居者もおられ、グループホームの存在意義を感じた。法人は本年度より外部講師を招聘した研修、ブロックごとの研修を取り入れ、職員の質の向上を図っている。法人の更なる発展のため、職員の待遇向上も視野に入れた運営を期待する。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前は理念の揭示、書式の再検討であった。事業所独自の理念の揭示はまだ出来ていない。書式は改善の後は見られたがまだ検討中のものもある。記録は記入し易く、その後の参考として見易く、要点を落とすことなく記録出来ているか、との視点で考えると、案外改善点が見えてくる。介護日誌の様式を再考されたい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各階のユニット長が中心になって、副管理者、介護職員の意見を取り入れて作成した。自己評価を書くことで毎日の業務の中で見落としがちな点を発見し、職員間の気付きの促しにつながる。年に1回義務的に受審するのではなく、積極的に取り組み、本ホームの更なる発展を期待する。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開いている。家族、民生委員、行政担当者、相談員、包括支援センターと参加者は多い。介護保険の改訂にあたり、加算制度の説明を丁寧に行っていることなど、内容は充実している。これからは地域の方の参加を勧められたい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議は活発で家族の意見は反映されている。またホームの運営方針、介護報酬の変更、加算などについても細かく、丁寧に説明して、家族の同意を得ている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人内特養と連携して地域の行事に参加することなどで、地域との交流はいい状態である。法人の持てる力を地域に還元すると言う観点から、認知症セミナーなどを開いて、地域の人が気軽に立ち寄ることが出来る行事などを考えられたい。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの事業計画において、地域との情報交換を行って。入居者に還元できる情報交換を行っている。地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える事業所独自の理念をつくりあげている。		事業所独自の理念を簡潔な言葉で表して欲しい。職員で知恵を出し合い、自分たちが目指すグループホームを象徴する言葉を見つけられたい。職員の共有の理念が介護支援の礎となると考える。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		法人が作っている全事業所共通の理念はある。それを土台とした、事業所独自の分かり易い簡潔な言葉の理念を掲示されたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年3回、併設の特養との合同行事に地域の人たちも多数参加していたことや、3月に、大阪狭山市のハートケアフェスタに参加したことで、地域の人々との交流ができた。		法人内併設事業所との行事を通じ、地域との交流が出来ることは理想的である、これからも職員協力の下続けられたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を受けて、生活援助計画の書式を現在検討中。日誌・ケース記録用紙の改善、フェイスシートの作成、事故報告書での家族連絡者のサインの徹底を行っています。		外部評価はチェックされるのではなく。日常の中で見落としがちなことを、自己評価を書くことによって見えてくること、外部の者の目で見ることにより、見えることを大切にしたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>スライドを用いて、日々の生活状況を報告し、質疑応答に十分な時間を設け、家族さんからの意見を参考に改善点に活かしている。</p>		<p>運営推進会議は活発に開かれている。地域との交流もしていることが、運営推進会議にもいい結果として現われている。行政の参加は3回に1回ということである。議事録は入居者家族、その他欠席者全員に届けている。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の高齢介護課に運営推進会議資料を渡して近況報告を行っている。介護相談員が2ヶ月に1回来て入居者と話しをしたり、ホームの様子を見てアドバイスを貰う。</p>		<p>運営推進会議の議事録を市の高齢介護課に渡している。相談員のアドバイスは市から電話で貰う程度で、書面では無い。今後は、電話でのアドバイスも記録として書きとめ、職員に周知されたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に報告をしている。面会頻度が少ないご家族、遠方の家族には電話連絡で近況報告や健康状態を連絡しています</p>		<p>家族に電話連絡をしている記録は特になく、ホームの便りは写真でホームの様子が良く見て取れる。そこに個人の近況報告が加えられると尚いい。電話だけでなく毎月の請求書などと一緒に、入居者の様子を加え、その控えも残されると尚いい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で家族の意見を聞いている。</p>		<p>運営推進会議の目的を果たしていると言える。介護報酬改正なども丁寧に説明し、入居者家族に理解と同意を得ている。その書面もある。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新人職員の育成に努め、職員の入れ替わりがなくなってきた。職員の離職率も減り、入居者と職員の間で馴染みの顔にもなり信頼関係も出来てきつつある。</p>		<p>職員の定着率が高まり、入居者も安心して暮らしている様子が見られた。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より研修部が出来、職員には出来るだけ多くの研修に参加出来るよう、努めています。		新人研修は即現場でマンツーマンで指導（期間は個人差あり）する。今年度から法人本部に研修部が出来、外部講師を招聘した研修を取り入れていること、また同敷地内の特養との研修もあり、職員の質の向上を図る体制を作りつつある。受講は勤務時間扱いである。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	半年に1回にグループホーム交流会を実施し、意見交換の場を設けサービスの質の向上に努めている。また、他グループホームとの交換実習を実施したり、行事に参加している。		他の地域密着型施設の職員と相互研修をしている。交流会に参加していたが、仕事が終わってから、個人負担での参加であり、だんだん参加者が減ってきているとの事である。他事業所との交流は職員の視野が広がることにつながる。経営体としての支援が望まれる。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族にこれまでの生活リズムや環境について聞き、ホームでの生活の開始を家族とともに相談している。入居者との関わりを積極的に持ち、信頼関係を築けるようにしている。入居者が安心した生活を始められるように、生活援助計画プランを立てている。		住み替えによる心の不安定感が増幅することが無いよう、今後も丁寧な支援を続けられることをのぞむ。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の尊厳を第一に考えた日々にするように、心がける。料理作りや手芸などを教えて貰ったり、入居者ができることはしてもらっている。		食事の準備を何人かの利用者は楽しくしていた。また殆どの利用者が食後、食器を流しまで持って行くなど、持てる機能をしっかり使うように促す支援をしていることは評価できる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者が思いを口に出せるよう信頼関係構築に努めています。また、一人ひとりの思いに気付くために、シグナルを読み取れるよう努めています。ユニット会議等で常に話し合い統一したケアが出来る様、努めています。</p>		<p>職員が定着し勤務が長くなることで利用者の変化、要望を受け止めることが深まると思われる。職員はユニットごとの専属であり、そのことも家族のように住んでいることにつながっていると思われる。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族と面談の時に要望を聞き、入居者がより良い暮らしが出来るよう、ケアプランを考えている。必要時には医療スタッフの意見を聞いている。</p>		<p>ユニット会議を勤務終了後（夜勤の時間帯で）開き、検討している。家族、医療スタッフの意見は其れまでに聞いておく、と言う段取りで作成している。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の変化に対し、ユニット会議等で話し合い敏速に対応しケアプランを立てている。</p>		<p>介護計画の見直しは3ヶ月を目途に見直しているが、特に異常事態が起きていない時は4ヶ月、5ヶ月と延びることもある。見直しは日常の入居者の行動や身体状況から、何が達成できていないか、どこに変化が見られるか、等を職員と医療スタッフがよく検討して、作成することを更に続けられたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームでの生活が難しくなった時に備えて、特養等の事前入所申し込みを促している。また、必要時には老健等の紹介もしている。</p>		<p>当法人の運営規程でグループホームで共同生活が困難に成ったときはグループホームを退所と成っている。入所時にその旨説明し、殆どの入居者が特養、老健の申し込みをしている。強制的にならない配慮を求める。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に、提携病院の医師が主治医となるが、病状や家族の希望で、他の医療機関を受診することもある。週に3回提携病院のドクターが併設の特養に診察に来ているので、必要に応じて当ホームの入居者も診てもらえることが出来る。		他の医療機関受診時は職員が付き添って行っている。状態を把握することも必要であるとの事、これからも継続されたい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態変化があった場合は主治医と話し合っている。家族には、状態や病状の説明、起こり得る事を相談し、介護方針を共有している。重度化に向け、併設の特養への申し込みをしてもらい、併設職員と連携をとっている。		共同生活が出来るということで入居するグループホームであり、ホームでの生活が困難になった時に備えて、あらかじめ特養などを申し込むことを入居時に説明している。グループホームを終の棲家と言う観点から考えて、終末期の対応を法人として、今一度、検討してみられたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者を尊重し、丁寧な言葉遣いをしている。リビングで排泄等の声かけをしない様に徹底している。排泄表なども見えないようにしている。職員同士の会話にも誤解や不安を与えないよう配慮している。		職員の定着率が高まり、入居者との会話の中には心の通いも感じられるところも見受けられた。入居者が何でも表出できる関係を構築されたい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々入居者のペースに合わせた関わりをしている。できる限り希望に添えるようにするために、個々のペースを職員が理解し支援している。		個々の入居者に合わせた支援は、勿論望むところではある。共同生活であり、日常の中で難しい時も起こりうると思うが、職員の認識の高さで出来る限り個々に添った支援を続けていかれたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や、後片付けを一緒にしている。時々、外食にも出掛け、食事意欲を高める様に工夫している。		食事準備を出来る入居者は楽しく一緒に作っていた。また食後も自分の食器は極力自分で流しまで持って行くことを見守っていた。メニューに関して、糖尿病の入居者に合わせることは必要であるが、味気ない献立のときもある。一日分のカロリーとして捉え、一考を要する。また、食べ物を小さく切るときは本人の前でなく、台所で切って出されることを望む。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望があれば何時でも入ることが出来る。お風呂の好きな入居者には銭湯に行くなど、違う雰囲気を入浴を楽しんでもらえる支援をしている。		銭湯に行くなどと言うことは入居者も楽しいことだと思う。これからも引き続き希望に添った支援を願う。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や個々の楽しみや希望を基に、農園を作り毎日の日課が出来る支援、外出や散歩の機会を多くしたりしている。個々に合った楽しみごとを、ケアプランに反映している。		農園を作ることで入居者の仕事が出来、また、食事の準備、後片付け、洗濯物たたみ、どれも家庭の中で一役受け持っていると言うことで、入居者は生活に張りが出る。さらに続けていただきたい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、なるべく散歩や外出する様支援している。家族と外出することもある。全体での遠出外出を、今年度も計画中である。		普段はお天気により、散歩、喫茶店、外食に行く。日曜日には、普段行けない少し遠方の外出をしている。年2回は遠足として、大阪城公園、天王寺動物園、神戸の花鳥園などに出かけるなど、職員の努力を感じる。ホームに閉じこもらない支援を今後も期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵をかけていない。玄関の施錠については鍵を掛けている。玄関は見守りが不十分のため改善出来ていません。		ホームは建物の2階と3階にあり、玄関は1階で鍵を掛けている。エレベーターホールあたりは広く閉塞感はないが、その分また見守りが出来難いという点もある。玄関を通過したとき音楽がなるような工夫も職員で考えて見られたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いの下、消防訓練を実施、法人全体として併設の特養厨房にて災害時の水や食料の確保、毛布の常備を行っています。		消防訓練は入居者も参加して2階は隣の空き地（法人敷地）に誘導、3階はベランダに誘導するなどしている。非常時の食糧については、特養に常備しているとの事であるが、食糧・水についてはホーム内に確保されたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握に努め、特変時にはケース記録と申し送りを行っています。水分量については、毎日全体の水分摂取量を記録して把握をしています。		食事摂取量・水分摂取記録はとられている。記録をとることで留めず、特変時についても適切に対応している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には季節に合わせたタペストリーを飾り、居心地よく過ごせる環境づくりになっている。入居者と作った手芸品なども飾ってある。リビングのテーブル配置には入居者の意向を取り入れている。		廊下は広く季節感のある落ち着いた装飾がされていた。居室の入り口もそれぞれの好みで個性的になっている。畳の間があり、掘りごたつ風のちゃぶ台で食事を取っている入居者もいた。スペースも広くゆったりとしたリビング・居室である。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方に必要な物、家族の写真、馴染みの家具や小物等を持ってきている。入居者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		居室はその人それぞれに設えられていて、今の生活が我が家として暮らしている、との趣が感じ取られた。

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。